

トークセッション：「みんなで連携を語ろう！」

角野文彦 氏（滋賀県健康医療福祉部）

松木 明 氏（ことう地域チームケア研究会世話人会代表・彦根医師会）

日村好宏 氏（彦根医療福祉推進センター所長）



同じ思いでつながる

【日村氏】：角野先生のお話であらためて気づかされたことがあります。ここにいる皆さんのそれぞれの仕事や役割に共通したものは一つしかない。一つのことです。みんながこの場でつながっているということ。それは、**目の前の困った人に対して、それぞれの立場で何とかしてあげたい、お役に立ちたい、という共通した思い**であり、考え方、ポジションではないかと思えます。

*進行は日村好宏氏

連携とは何か

【日村氏】：目の前の困っている人を何とかしてあげたいと思えば思うほどできないことが出てきますが、今はこれだけのいろんな各種ポジションのプロがいるわけですから、どのようにうまくつながれば解決できるのか、**どこに何を頼めばどういうふうに解決できるのか**、今後我々はチームケア研究会等を通して考えていかなければならないと思います。そのためには、みなさんが**それぞれの専門職がどのようなことをやっているのか興味を持ち、理解すること**が大事だと思います。

専門性を生かし、のりしろをもつ

【角野氏】：昔は地域に何もなかったもので、みんな「何でも屋」でした。今は様々な職種がいて、専門性は大事ですが、連携する難しさもありますね。それぞれが**のりしろを持ち、手を伸ばしていく**ことが大事ですね。

わがまちの地域包括ケアとは

【松木氏】：昔、資源が何も無いある山村では、いろんな人を探し集めて、話し合っ地域医療や地域づくりが行われてきました。その良さが段々と広まっています。このような取組が全国の街、都市部でもやれるかどうかこれがこれからの試金石だと思います。そのためには、**「地域」をどう考えるか、「包括ケア」をどのように考えるか**ということが大事になってくると思います。



松木明氏

ないものねだりをしない あるものを活かす

【松木氏】：今あるものを探して、ある資源をどのように使うのか、いかに充実させるかを考えること。資源がないからだめと思わずに、地域包括ケアシステムに取り組みないといけないと思います。

住民が主役の地域をどう創るか

【角野氏】：地域によって資源も人の考え方も全然違う。結局はそれぞれの生活圏域の中で、みんなが主体になって考えないといけない話です。すぐ隣の地域ですら全然違うかもしれない。他の地域と同じようにしたとしてもこの地域で幸せなのかどうかはわからない。

やっぱり**住民一人一人が主役になる**ということが大事。要するに、住民が住んでいるところをいかに生き生きと楽しいところにするかということです。

「なんかおもしろいな」という地域を創る、それが住んでいる人もそうですが、我々も楽しくなる、ということではないかと思えます。



角野文彦氏

多職種連携の促進に向けて ～声を集め、思いを広げる～

【松木氏】：患者さんや家族と一番身近に接しているヘルパーさんや施設の介護職員さんの現場の声をもっとお聞きしたい。どうか、**他の職種の方からも現場の声を研究会に持ち込んでいただきたい**と思っています。



【日村氏】：チームケア研究会で聞いたこと、学んだこと、感じたこと等を職場に持ち帰って、**ぜひ伝えていただきたい**と思います。きっとここに集まるメンバーが、湖東エリアの住民が満足できる、そして専門職同士も満足できる、効果的で素晴らしい医療福祉の連携を作っていくのではないかと考えています。

角野氏の講演、そして、話題提供①「湖東地域のあるべき姿(めざす姿)について」(彦根市医療福祉推進課) ②「医療と介護の連携に関するアンケート調査結果より」(彦根愛知犬上介護保険事業者協議会)を受けて、

グループ交流会 『連携を語ろう!』

みなさんは「連携する」ってどういうことだと思いますか。

どのような連携をされていますか。

どのような連携をしていきたいですか。



- 医師「電話の時に顔が思い浮かぶ関係が必要」「診一診の連携がもっと進むとよい」
歯科医師「歯科医師にも声をかけていただきたい。声をかけていただくことで一歩、二歩、前に進む」
薬剤師「薬局で薬を渡している患者さんの在宅での様子を知りたい。他職種の方から様子を聞きたい」
訪問看護「利用者メインの連携を。医療中心ではなく患者中心の連携が必要だとあらためて感じている」
ケアマネジャー「顔見知りになった方には相談しやすい。顔の見える関係作りが大切」
リハ職「家ででの困りごとに対応したりハビリができるように多職種との情報交換が大事」
介護職員「ケアマネジャーを介して他職種と情報交換。担当者会議等、話し合いの場も重要」

『日頃からどの人かどのような役割(仕事)をしているのか知っておくことが大切』

『出会う機会があればつながる』

『電話での情報のやり取りだけでなく、顔を見て、互いの“思い”がやり取りできるとよい』

『出席者同士の交流にとどまらず、現場で活かすことができるようにしなければならない』

『縦割りの制度では出来ることに限界がある。横のつながりで幅広い支援を』



・・・等など、グループ発表の時間が無かったので記録用紙から抜粋しました。

「今日のテーマをこのままで終わらせるのはもったいない!」

「もっと話したい!」
「もっと聞きたい!」

連携する良さが互いに実感できるつながりを!

時間の都合で参加者の皆さんに十分意見交換をしていただくことができませんでしたが、今一度、「連携する意味、目的」を共に考える時間となりました。今後も引き続き、チームケア研究会や、皆様の職場、日々の実践の中で深め合っていきましょう。



ご参加ください! 次回(第33回)は...

◆平成30年7月12日(木) 18:30~20:30

会場:くすのきセンター1階

テーマ:「終末期をどう過ごし、どのように支えあいますか」
~最期の望みを叶えるチームアプローチ~

担当団体:彦根医師会

訪問看護ステーション連絡協議会第5地区支部

*研究会は申込み不要です。当日会場へお越しください

*問い合わせ先:ことう地域チームケア研究会事務局
彦根愛知犬上介護保険事業者協議会(TEL 49-2455)
彦根市医療福祉推進課(TEL 24-0828)

お知らせメールの登録をお願いします。

研究会の開催状況や、次回のご案内をメールでお知らせします。ご希望の方は、「①お名前 ②ご所属 ③ひとつこと」をいれて下記にメール送信してください。

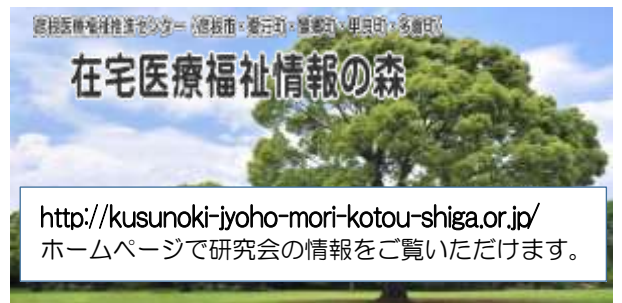
☆ことう地域チームケア研究会事務局

(E-mail) info@gen-ai-ken-kaigo.jp

彦根市医療福祉推進課(彦根市・彦根市・彦根市・彦根市)

在宅医療福祉情報の森

<http://kusunoki-jyoho-mori-kotou-shiga.or.jp/>
ホームページで研究会の情報をご覧いただけます。



こんなこと思いました

第32回参加者アンケートより

思ったこと、もう少し聞きたいことなど

- 目標とするのは満足できる人生を送ってもらうことである。以前よりは多職種間でもより顔の見える関係が強くなってきていると感じています（医師）
- もう少し交流、連携してみよう（歯科医師）
- 訪問診療を依頼されたら誰に相談すればいいのでしょうか。やはり多職種となるとなかなか連携するのに気が引けてしまう（歯科医師）
- いかにか地域の特色ある連携を続けていくことが重要か理解が深まりました（薬剤師）
- 地域包括ケアシステムの本来の意味を再確認することができました。職種ごとに連携に対する満足度が違い、現状を知ることができました（作業療法士）
- 医師が求められていることは患者さんの生活感だと教えていただき、連携の内容が明らかになりました。同じ目標、目的に向かっていく関係、電話口で顔が思い浮かぶ関係を作っていきたい（ケアマネジャー）
- 具体的にどのような連携ならとりやすいのか、どこまでお願いしたらいいか、方法など、もう少し皆さんのお話を聞きたかったです（ケアマネジャー）
- 住んでいるところを楽しいところにする！（ケアマネジャー）
- 角野先生が話されていた専門職がそれぞれの専門のりしろをもってやることがおのずと連携できるといわれたことがよかったです（ケアマネジャー）
- その人の生きがいにスポットを当てること、つい忘れがちになっていたなと思いました。どうしてもできないことに目が向きがちでした。その方が何を望んでいるのか、専門職が何ができるのか、役割を果たしながらその人を支えていければと思いました（介護職）
- 介護の仕事をしていてケアマネジャーからの情報、また日中に起きたこともケアマネジャーとのやり取りで医師、家族に。連携とは大切だと思いました。医師、ケアマネジャーの思いを聞き、日々の利用者の変化、状態など連絡し連携してほしいと話していただきとても参考になりました（介護職）
- それぞれの立場で連携の器に差があり、一気に連携といっても難しいと思っていたが「のりしろ」でつながるヒントになった。それぞれの立場での現在の連携を聞いてただけでその先に踏み込めなかったのが残念。「〇〇職に聞きたい」みたいに普段つながりの少ない職種間で情報交換できるような機会があればいいと思う（介護職）
- 他職種の方とつながるのはなかなか難しいが、やはり自分たちが動かないとつながらないし、問題が解決しないと感じさせられた。もっとどんどん聞いたり、連絡してほしいといただくので今後うまくつなげていきたい（介護職）
- 私たちの仕事は人々が生きがいを持って暮らせるような仕組みづくりなのだと感じました。そして、その対象はすべての年代なのだと学ぶことができました。会議の中でどのように協力し、連携をとるかを話し合うことも大切ですが、今日の研究会のように地域にはどのような職種のどのような人がいて連携をどのように捉えているのかを聞ける機会も大切だと思いました（保健師）
- 連携といっても、専門職だけでなく、地域の民生委員の方と情報を共有していくことが必要になると感じた。他の専門職から自分の職種に求められる役割を聞くことができよかった（地域包括・社会福祉士）

- ・連携をスムーズにとるには関係性をよくすることで成立するとの意見で顔が見える関係を心がけていきたいと思いました（看護師）
 - ・困っていることはみんな共通している。その中でみんなの知恵が出せる場があればいいのと思う。
 - ・「健康」は主観、というのはもっともだと思います。自分が年をとっても住みよい町にしないと。
 - ・みんなが手を伸ばす、伸ばせるためにはどのような考えや要因が必要か等、もう少し聞きたかった
 - ・時間が短かったが中身の濃い内容だった
 - ・人それぞれの思い、希望通り満足した暮らし、人生が送れることをささえること、住民が主体となって語られる地域づくりが必要だと改めて感じた
 - ・地域包括の発想は目からウロコでした。いろいろな圏域での具体的なお話をもっと聞きたいです。
 - ・現場の声が聞けると次への一歩につながる気がする。この会を機に大きな流れが出来るとういと思います
 - ・連携という言葉。わかったようでわからない言葉であるが話すことで深まった。「ずうずうしく聞く！」これでいこうと思えた
 - ・他職種が集まって困りごと（連携）などもう少し聞く時間があればよいと思いました。
 - ・地域包括ケアシステムの原点を考える機会となりました。健康な町づくりについて今後関わればと思う。グループ参加者の意見を聞き地域で困っている人をどう助けるかを考える職種（というか一個人）が多いと感じ、手をつなげば素晴らしいことができるのではと感じた
- *他、「時間が足りない」「もっと話したい」の意見多数。

貴重なご意見・ご感想、本当にありがとうございました。

●参加者の方の所属事業所（順不同）

* 同意をいただいた事業所様のみ掲載しています

【病院 診療所】松木診療所・中西医院・上林医院・彦根市立病院・友仁山崎病院・ゆとり治療院

【歯科医院】つつみ歯科医院・田井中歯科医院・堀口歯科医院・野村歯科医院・安澤歯科診療所

【薬局】丁字屋薬局・リリー薬局

【訪問看護ステーション】訪問看護ステーションふれんず・レインボウひこね・訪問看護ステーションひまわり・訪問看護ステーションオーリーブ

【居宅介護支援事業所】あったかケアプランセンター・ニチイケアセンター彦根・笑ケアプランセンター・彦根市社会福祉協議会居宅・ぶどう居宅介護支援事業所・ケアマネジメントセンターライフ・さざなみ苑居宅支援センター・NPO ぽぽハウス・近江ふるさと会居宅・鈴木ヘルスケアサービス・友仁ケアプラン支援センター・居宅介護支援センター元気村・ケアプランセンターどりーむ・信幸ケアサービスセンター・ゆりの木ケアプランセンター

【介護サービス事業所】特別養護老人ホーム多賀清流の里・特別養護老人ホームゆりの郷・トーカイ・サニープレイス彦根・デイケアはるのうみ・ケアサポートおうみ・あったかハウス京町・グループホームあいの里八坂・デイサービスさくら

【地域包括支援センター】多賀町・豊郷町・彦根市（すばる・いなえ・ひらた・きらら・ゆうじん）

【行政関係・医療福祉専門職団体】彦根市医療福祉推進課・彦根市障害福祉課・彦根市社会福祉課・多賀町福祉保健課・湖東健康福祉事務所・彦根市社会福祉協議会

【その他】滋賀医科大学・花かたばみの会・宇野酸素・中北薬品